

(旧宮地線)
JR豊肥線開通100周年
思い出を運び続けて



阿蘇の貴重な公共交通機関として活躍してきたJR豊肥線。熊本地震により線路は寸断していますが、通勤・通学、旅行などの移動手段として長年たくさんの市民や旅行者を運んできました。そんな豊肥線(旧宮地線)も平成30年1月25日に開通100周年を迎えました。多くの思い出を乗せた鉄道の開通当時の様子を振り返ります。

阿蘇に汽車がやってきた

スイッチバックや立野トンネルなどの難工事をのりこえ、熊本から大分を結ぶ豊肥線の立野駅〜宮地駅間は第一次世界大戦終戦の年、大正7年の1月25日に国の鉄道として開通しました。開通当時は、「軽便鉄道法」によって建設されたことから、「宮地軽便線」と呼ばれていました。それから10年後の昭和3年に大分側の「犬飼軽便線」と結び合い、豊肥線と呼ばれるようになります。

開通に併せ、赤水駅・内牧駅・坊中駅(現在の阿蘇駅)・宮地駅の4つの駅が設置され、阿蘇の住民にとって悲願であった鉄道が初めてカルデラの中に入りました。

開通の祝賀会は風雪吹きすさぶ日、移動動物園や見せ物小屋、露店などが立ち並びにぎわう中、宮地駅近くの阿蘇中部高等学校校庭で催

されましたが、来賓あいさつも打ち切られる程の寒さだったとの逸話が残っています。

鉄道が整備されたことで、物流も増加。貨物列車には米をはじめ木材、酒、醤油、塩干魚、雑貨、反物類などが熊本方面から持ち込まれるなど、阿蘇の産業発展に大きな影響を与えました。



開通当時立野トンネルを通過するSL

阿蘇に設置された4つの駅

【赤水駅】

宮地線開通に伴い開発されたものに沼鉄と呼ばれる鉄鉱石の鉱山があり、土壌を赤く染めるため赤水の地名ともなっています。三井鉱業所が開発に乗り出し、豊肥線開通当初は赤水駅から鉄道便で大牟田を経て北海道室蘭製鉄所まで運ばれていました。昭和に入ると外輪山の碎石バラスが赤水駅から鉄道用に出荷されるようになりました。

昭和17年、湯の谷(旧長陽村)に九州産交が運営する阿蘇観光ホテルが完成すると、本格的な洋式ホテルを利用する貴賓客の送迎のため、赤水駅には貴賓室が設けられました。

太平洋戦争下の昭和20年には米軍機が運行中の列車を狙撃し、乗務員1名が重傷を受け、機関車が破損する被害を受けました。

昭和57年には利用者の減少により無人駅となりました。

現在は、熊本地震の影響で駅舎が破損したため、取り壊された状態となっています。

【内牧駅】

豊肥線開通当時は、県内有数の温泉地として知られた内牧温泉が全盛期の時代でもあり、内牧駅が設置されました。

最初の路線計画では温泉街の近くを通する鉄道敷設が検討されていましたが、蒸気機関車の黒煙と地響きを嫌う内牧地区住民の反対で、温泉街から4^{km}離れた乙姫地区に内牧駅が設置されました。

開業当初は馬車130台分の貨物運搬が行われていました。戦時中は三井鉱山の鉄鉱石を積み込む駅としても栄え、駅前には三井鉱山事務所も設置されており、最盛期に褐鉄鋼を月6400^ト積み出しています。

昭和17年に駅舎は一度新築落成しましたが、3年後に米軍機による焼夷弾攻撃を受け駅舎・駅長官舎は全焼し、駅長も重傷を受けました。その後、昭和25年に再度新築落成しましたが、昭和47年に貨物取扱いが中止。昭和57年に無人駅となりました。

赤水駅と同様に熊本地震の影響で駅舎が破損したため、現在は取り壊された状態となっています。

【宮地駅】

宮地駅は、阿蘇中部高等小学校的運動場に建てられました。豊肥線の終点となっていた宮地駅の乗客数は一日平均150名ほどで、駅待合所が狭く感じられるほどでした。

当時は駅周辺には何もなく、一番最初にできた店はいまの藤屋観光で、宮地駅開業の一年前でした。その後、旅館や食堂、商店などが立ち並び次第に街が形成されていきました。

現在の駅舎は、昭和19年に増改築されたもので、スイスの登山鉄道を参考に山小屋風に造られています。



開業当時の宮地駅

【坊中駅(現阿蘇駅)】

当初、内牧駅～宮地駅間に駅をつくる計画はありませんでしたが、住民の熱心な請願によって簡易停車場として坊中駅が開設されました。

その後、阿蘇登山が身近になった時代でもあり中岳火口の見物を目的とした観光客が増加。昭和4年には登山者が年間30万人を超え、阿蘇登山の玄関口として大いに賑わいました。当初駅長以下3名で開業した坊中駅でしたが、最盛期には駅長以下19名のスタッフが勤務しました。

昭和36年に阿蘇駅に改称されています。



昭和初期の坊中駅(現阿蘇駅)

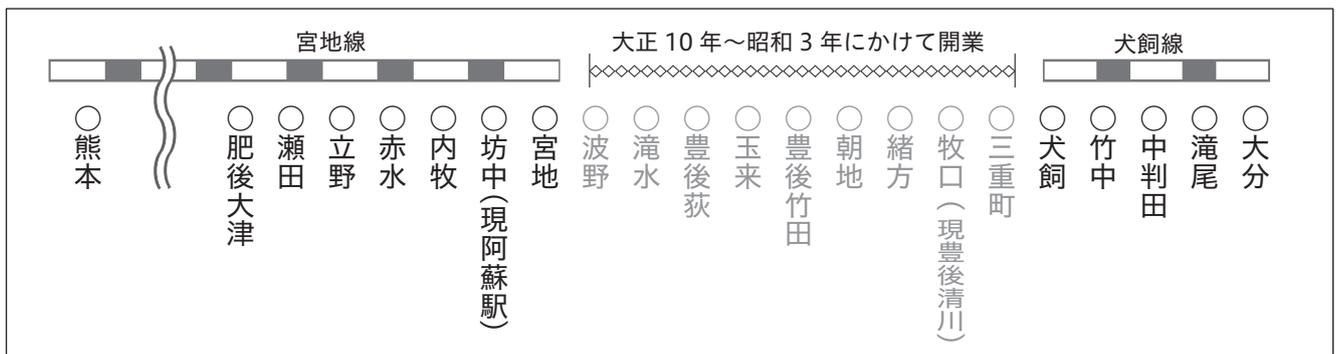




【豊肥線沿革】

	宮地線(熊本県側)	犬飼線(大分県側)
大正 3年(1914年)	熊本駅～肥後大津駅間開通	大分駅～中判田駅間開通
大正 5年(1916年)	肥後大津駅～立野駅間開通	中判田駅～竹中駅間開通
大正 6年(1917年)		竹中駅～犬飼駅間開通
大正 7年(1918年)	立野駅～宮地駅間開通 赤水駅・内牧駅・坊中駅・宮地駅開業	
大正 8年(1919年)	宮地駅～犬飼駅間(大分)の工事着工	
大正 10年～大正 14年 (1919年～1925年)		犬飼駅～緒方駅～朝地駅～竹田駅～玉来駅間開通
昭和 3年(1928年)	宮地駅～玉来駅間の工事が竣工し熊本～大分間(148km)が全通。 波野駅・滝水駅・豊後萩駅開業。宮地線と犬飼線豊肥線をあわせて豊肥線と改称。	
昭和 35年(1960年)	市ノ川駅を新設	
昭和 36年(1961年)	坊中駅を阿蘇駅に改称	
平成 元年(1989年)	いこいの村駅を新設	

【宮地線開通当時(大正7年)の停車駅】



JR 豊肥線のこれから

熊本地震が発生した平成28年4月から現在まで、豊肥線は肥後大津駅～阿蘇駅が不通のままとなっています。その間の線路と内牧駅・赤水駅の駅舎は、阿蘇大橋地区の大規模斜面崩壊箇所の工事状況等を見ながらJR九州が復旧時期を精査している状況です。

自動車さえあればどこにでも移動できる現代においても、鉄道は免許を持たない学生や高齢者たちにとっては無くてはならない貴重な交通手段です。現在、JRの代替バスや九州横断バスなどにより、阿蘇と熊本を結ぶ公共アクセスが利用可能です。しかし、本数が少ないこと、代替バスは学生優先のため満車時は一般市民が乗れない場合があること、日曜祝日は運行していないことなど、まだまだ不便な状況が続いています。国道57号と併せて、100年もの歴史ある豊肥線が復旧してこそ阿蘇の復興が成しえるのではないのでしょうか。一刻も早い豊肥線全区間の再開が望まれます。

参考

- ・一の宮町史(豊肥線と阿蘇)
- ・阿蘇町史(第1巻通史編)
- ・阿蘇町開湯100年ルネッサンス記念誌



宮地駅開業100周年 記念セレモニー



1. 記念セレモニーの様子
2. 列車を待つ園児たち
3. 出発を合図する佐藤市長と梶原駅長
4. ぜんざいをふるまう地元婦人会の皆さん



宮地線開通と同時に開業した宮地駅で1月25日に開業100周年記念のセレモニーが開かれました。

地元宮地地区の区長など多くの人が集まる中、佐藤市長やJR九州熊本支社の東幸次支社長、一の宮町史の著者 井上智重氏が豊肥線や宮地駅の開業を祝い、積み重ねた歴史を振り返りあいさつしました。

セレモニーの後、宮地保育園とあそひかり幼稚園の園児約100名が宮地駅発の列車に乗り込み、佐藤市長と梶原駅長の出発合図のもと阿蘇駅へ発車しました。

当日は、開業当時の写真や九州を走行していた寝台列車のヘッドマーク展示、開業100周年記念スタンプ設置、地元婦人会による手作りぜんざいのふるまいなどが行われ、開業当時の状況に思いを馳せました。

宮地駅長
梶原 浩昭 さん



一昨年の熊本地震で被災された皆さまにここからお見舞い申し上げます。

宮地駅に赴任してきて4年目になります。ももとの出身も宮地です。本駅に赴任中に開業100周年を迎えられたことを大変光栄に思います。また、セレモニーにご協力をいただきました関係者の皆さま誠にありがとうございました。

現在、肥後大津駅、阿蘇駅間は熊本地震の影響で不通区間となり皆さまにはご迷惑をおかけしております。一日でも早い復旧に全力で取り組みますので、これかも豊肥線を是非ご利用ください。